

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第22週 (5/28-6/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		22週	21週	20週	19週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/28-6/3	5/21-5/27	5/14-5/20	5/7-5/13	5/21-5/27
			22週	21週	20週	19週	21週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.11	12 0.09
	咽頭結膜熱		3 0.17	7 0.39	5 0.28	1 0.06	145 1.10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	74 4.11	70 3.89	66 3.67	47 2.61	441 3.34
	感染性胃腸炎		147 8.17	153 8.50	157 8.72	113 6.28	787 5.96
	水痘		5 0.28	27 1.50	4 0.22	20 1.11	127 0.96
	手足口病		3 0.17	1 0.06	2 0.11	0 0.00	18 0.14
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	2 0.11	1 0.06	21 0.16
	突発性発しん		9 0.50	15 0.83	14 0.78	19 1.06	92 0.70
	ヘルパンギーナ	○	4 0.22	1 0.06	2 0.11	3 0.17	15 0.11
	流行性耳下腺炎		2 0.11	1 0.06	4 0.22	1 0.06	10 0.08
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		5 0.18	5 0.18	2 0.07	5 0.18	18 0.08
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎		4 0.80	4 0.80	1 0.20	1 0.20	25 0.71
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出(抗PT IgG)
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	女性	90歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出

・第22週は、結核3件(78)、E型肝炎1件(3)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(4)、梅毒1件(12)、百日咳5件(27)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第22週のコメント

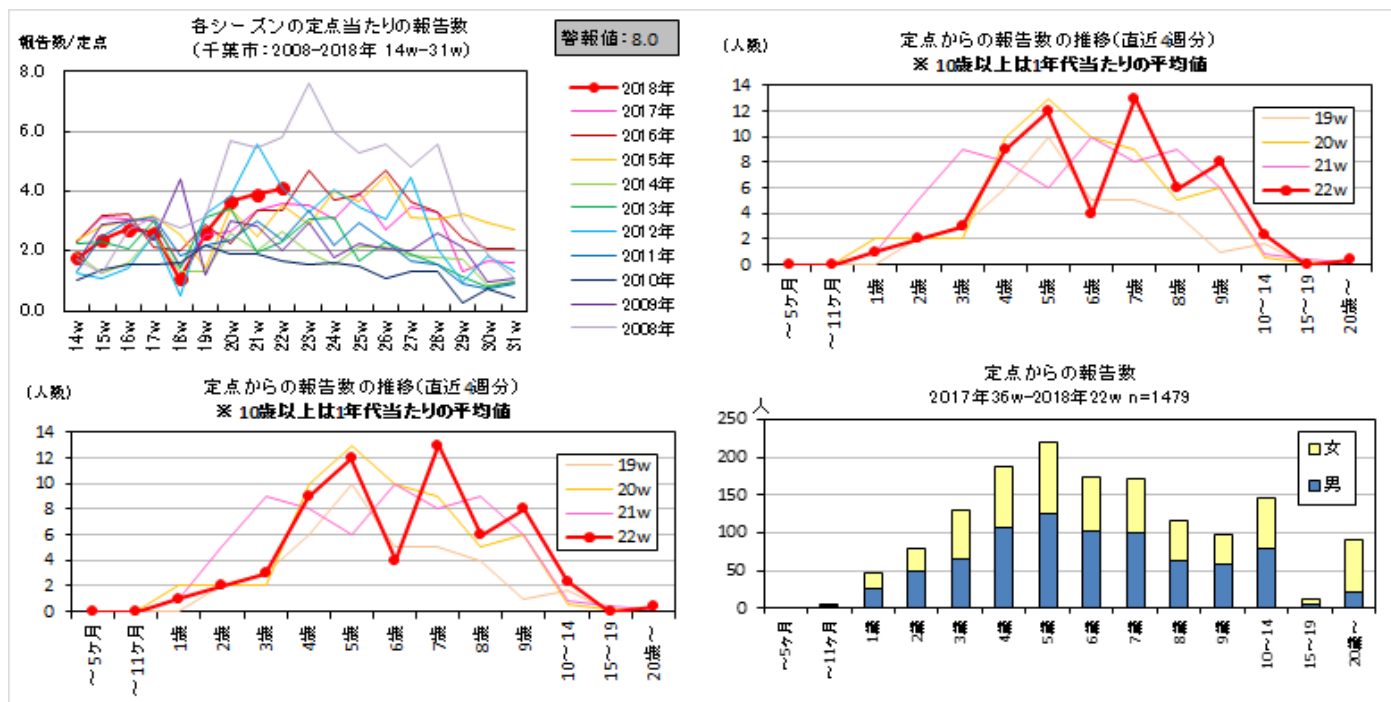
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し4.11となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。例年の発生動向によると今後増加する傾向。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第21週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では新潟県、埼玉県、福井県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第22週は前週より増加し4.11となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(11.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第22週までの累積報告数(n=1479)によると、性別では男性が54.4%(804名)、女性が45.6%(675名)で、年齢階級別では5歳(14.9%:220名)、4歳(12.7%:188名)、6歳(11.8%:174名)の順で多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第21週は、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では宮崎県、鹿児島県、青森県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第22週は前週より増加し0.22となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなりました。例年の発生動向によると今後増加する傾向があります。区別の発生状況は、花見川区(1.0/定点)で多く、同区の1歳及び3歳で発生報告がありました。2018年第1週から第22週までの累積報告数(n=16)によると、性別では男女共に50.0%(8名)で、年齢階級別では1歳(43.8%:7名)、6-11か月(18.8%:3名)、2歳(12.5%:2名)の順で多くなっています。

